



NPO法人愛のまちエコ俱楽部
2024年度
活動報告レポート



持続可能な暮らしのために

東近江がつないできた資源循環の取り組み『菜の花エコプロジェクト』。私たちNPO法人愛のまちエコ俱楽部はこの大切な基盤と地域資源を活かし、新たな価値を創造しながら、事業として地域課題の解決に取り組みます。

誰もが豊かに、持続可能な暮らしを描き、実践できるフィールドを提供する。そのことを通して、たくさんの方とともに、未来世代へつなぐ持続可能な地域の在り方を模索し続けます。

Vision ー 目指す社会像

持続可能な地域を 未来へつなぐ

Mission ー 私たちの役割

誰もが持続可能な暮らしを実践できる、 場+仲間+選択肢を提供する

Action ー Mission達成のための具体的な方針



農村資源と暮らしを、活用を通じて保全する
地域の多様な『しごと』を生み出す
豊かな『自給のしくみ』を創る
人的資源や団体をつなぐ
地域の内と外をつなぐ
知識や知恵の創造・共有・交換をすすめる
協働で、新しい『公共』を担う
『安定した基盤』と『提案する力』を培う

NPO法人愛のまちエコ俱楽部 活動概要

【菜の花エコプロジェクト】

「あいとうエコプラザ菜の花館」指定管理者

廃食油リサイクルせっけん製造／BDF製造／くん炭製造／菜たね収穫・乾燥・調整作業請負／菜たね油製造・販売／菜たね発酵油かす肥料製造・販売／視察研修・環境学習受入

【ローカリゼーションプロジェクト】

農業体験・里山保全活動「土と暮らしと」／新規就農・移住支援／教育旅行・農家民泊推進／宿泊・レンタルスペース事業「だれんち」

2024年度活動報告レポート

目次

- 01 2024 GOOD NEWS !
- 02 活動の発信
- 03 CO₂ネットゼロにむけた取り組み
- 04 活動を語り、伝える生産物
- 05 農ある暮らし
- 06 「だれんち」から広がる共感



01 2024 GOOD NEWS !

20周年を迎えて～感謝、そして未来へつなぐ～

2024年10月にNPO法人愛のまちエコ倶楽部は設立20周年を迎えました。20年間活動を続けてこられましたのは、皆様からの温かいご支援、お力添えがあったからこそ。心より感謝申し上げます。

2024～2025年にかけて講演・交流会・冊子・ワークショップと様々な形で20周年記念企画を実施します。みなさまとこれまでやこれからを語り、一緒に20周年の喜びを分かち合いたいと思います！



第1回金沢大学宮本賞を受賞！

金沢大学宮本賞は、滋賀大学長のご経歴もあり、金沢大学名誉博士である宮本憲一氏のご寄附を原資に創設された賞。“財政、地域、自治、環境に関する社会科学の分野で顕著な業績を挙げた研究者や市民活動を顕彰”するもので、その栄えある第1回に市民活動の部で選んでいただきました！

賞をいただきたびに感じますが、これはNPOが生まれる前からこの地域が重ねてきた活動や、日ごろから菜の花エコプロジェクトにご協力くださっているみなさまへの賞だと思います。みなさま、おめでとうございます！



同じ市民活動の部では「沖縄環境ネットワーク」さんが受賞されました。米軍基地の問題と、それに伴う経済や環境、地域文化など様々な課題に対峙されており、受賞式での発表には心を打たれました。

HPをリニューアルしました

HPを念願のリニューアル！ 菜の花エコプロジェクトのことや、設立当初に比べてかなりの拡がりをもった農村事業.....。ちゃんと伝えるにはどう表現したらよいのか.....。心労をともなう（！）作業でしたが、その過程はこれまでの事業の位置づけを整理し、改めて目指す方向を確認するという意義のある機会になりました。

途方もない整理作業に、呆れずにお付き合いいただいたHP制作のAMATAさんに感謝です！ぜひ新HP、チェックしてみてくださいね。



新しくなった
HPはこちら！

02 活動の発信

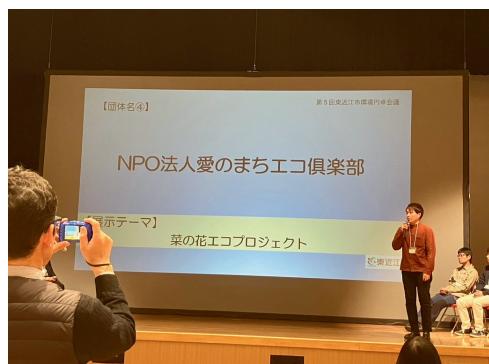
ローカルでの実践を全国に発信

足元も着実に

昨年度、環境省主催の第11回グッドライフアワード『環境大臣賞 最優秀賞』を受賞したこともあり、「ローカリゼーションディ日本」「地域循環共生圏フォーラム2024」「淡路環境のつどい」等、多くの講演の機会をいただきました。

これまでの菜の花エコプロジェクトの活動をアップデートしながら継続してきた“いま”、どんな活動に拡がってきているのか、“いま”どんな課題に地域で取り組んでいるのか、「CO2ネットゼロへの具体的な実践」「集落営農の担い手体験」「次世代への継承」など日々現場でトライ＆エラーを繰り返しながら進めている様子をまじえてお話させていただきました。

また大学への出張講義を「立命館大学」「滋賀県立大学」にご依頼いただきました。学生のみなさんにはこれから一緒に出来ることがあればと、「だれんち」での企画などもお話してきました。今後も地域内外のみなさまとの関わりしろを探っていきたいです。



東近江市環境円卓会議に出展

1月18日（土）に東近江市の能登川コミュニティセンターにて行われた「東近江市環境円卓会議」に参加しました。

東近江市環境円卓会議運営委員会と市が主催するこの企画。第五回にあたる今回のテーマは「東近江市環境オープンキャンパス」。地域で活躍する若者や団体による活動紹介と、来場者との意見交換が行われました。

エコ俱楽部のブースでは20代スタッフ2名が、普段担当している環境学習についてポスターを用いて説明。「菜ばかり」と「愛しゃばん」の販売も行いました。来場者のなかには熱心に説明を聞いて質問をしてくださる方や、活動に活かせそうなアイデアを寄せてくださる方も。環境分野への高い関心をとても心強く感じました。

また、東近江をフィールドに環境分野で活動している人・団体同士が交流する機会は普段あまりないので、今回のイベントはお互いの活動を知ることができる貴重な機会となりました。



菜の花自由研究

2024年夏、環境学習の新企画「菜の花自由研究」を行いました。夏休みの自由研究をきっかけに、菜種や油のこと、そして菜の花エコプロジェクトを知ってもらおうと企画しました。

内容は、菜種搾油・ビン詰め体験と菜の花館見学です。みんなで力をあわせて油を搾り、お土産には100gの菜ばかりをプレゼントしました。

2日間で19組の親子が来てくれました。子どもたちの感想では、「油をつくる作業の大変さがわかった！今日学んだことを自由研究にまとめたい！」といった声をいただきました。また、保護者の方からは、「自由研究の続きとして、家に帰ってから菜種油でお菓子づくりをしようと思います。」との嬉しいお言葉をいただきました。



おいしく学ぶ！菜の花給食



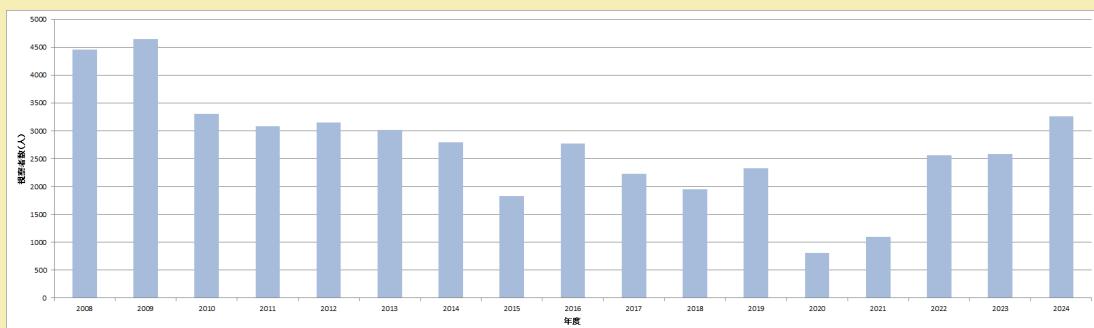
地域で作った菜たね油は、市内の子どもたちにぜひ食べもらいたい。そんな想いから、東近江市内の幼稚（児）園、小中学校では年に一度、「菜ばかり」を使用した料理が提供される「菜の花給食」の日がもうけられています。

2024年度は10月に行われ、小エビの天ぷらが提供されました。当日は山上小学校と箕作小学校の給食の時間にエコ俱楽部のスタッフがお邪魔して、「菜ばかり」ができる過程や、廃食油の地域内循環についてお話してきました。

（その様子は地元ケーブルテレビの東近江スマイルネットさんや、滋賀報知新聞さんが発信してくださいました！）

子どもたちからは「いつもの天ぷらよりあっさりしてておいしかった」というコメントも。菜の花給食を通して子どもたちに、地域のことや環境のことについて関心をつてもらえるよう、今後も取り組みを続けていきます。

視察研修参加者数推移



2024年度にはコロナ禍前を上回る参加者数を記録！

～さらなる発信力の強化にむけて～

菜の花プロジェクトネットワークのつながりを継承

全国各地、様々な形で菜の花プロジェクトや地域資源循環に取り組む団体が活動しています。超党派の「菜の花議員連盟」なるものも存在し、実は会長は石破首相。

安土にあった『菜の花プロジェクトネットワーク』さんはそんな全国のメンバーをつなぐ中心組織として活動されていましたが、第20回菜の花サミット（小山市）開催を一区切りとして、2022年に解散されました。長年積みあげてくださったつながりを出来る限り継承すべく、まずは菜の花栽培や菜種油の普及について一緒に取り組む共同事業を、豊田加茂菜の花プロジェクトさんや長野の地域づくり工房さんと計画中。各地の知見を共有したり、協力できるネットワークづくりを目指していきます。



菜の花議員連盟の勉強会に
顧問の藤井さん、理事の青山さん
事務局2名が参加

スタッフのスキルアップのために 理事レク・研修勉強会

2023年度末から、スタッフのスキルアップのための勉強会を続けています。2023年3月には、福知山公立大学の谷口知弘先生をお呼びして、ファシリテートの姿勢や技術を学ぶ研修を行いました。

2024年度からは視察研修の勉強会として、事務局スタッフ全員で内容のすり合わせやそれぞれの疑問点を解消する時間をとっています。

さらに、理事のみなさんから事務局に伝えたいことをそれぞれのテーマでお話いただく「リジレク」を実施しています。



2024年度のメディア掲載



2024年10月17日
ローカル観光ガイド
WEBサイト「巡る滋賀」



2024年4月
東近江市公式
YouTubeチャンネル



このほかに東近江スマイルネットさんに菜の花
自由研究と菜の花給食について、韓国KNNテレビ
さんにせっけんについて取り上げていただきました！

2024年10月29日
滋賀報知新聞



【東近江】東近江市が100%の菜種油で調理した「菜の花給食」が21日、25日の2日間、市内の20小学校で提供された。地元農家で栽培している「よしり組み」を知る機会を提供して、社会(国)課、小中学校の給食で毎年実施しているものの、使用した菜種油は、向こう取り組む「菜の花プロジェクト」の一環として、東近江などでも実際にやさしい方法で栽培された菜の花から榨油されたもの。使用油の取扱いは、環境省の「おしゃせパッケージバイオディーゼル燃料」(BDT)に再利用されている。
2月15日(日)に開催された「菜の花プロジェクト」では、菜種油で調理する「おしゃれなごはん」が、地元・滋賀・小学校約13校に1万食が提供された。算作小学校5年生のコスukeは、児童代表が「いただきます」と元気声がけしたあと、食卓たちは、「NPO法人菜の花エコプロジェクト」の監査のプロジェクトの話を聞きながら、おいしそうに耳を傾けた。
給食食べた児童は、「いつも食べる入がうどんが違う。甘みがあっておいしい」と、喜び声が聞こえた。

03 CO₂ネットゼロにむけた取り組み

「もみ殻くん炭」の可能性を探り拡げる

農業でのCO₂ネットゼロの取組をさらに進めるべく、2024年4月に、先進的な取組を行っている亀岡市にある「亀岡クルベジファーマーズ」さんへ市役所（森と水政策課・農業水産課）・梅澤理事と共に視察・意見交換してきました。

取り組みをより地域で進めていくには、農家さんの主体的な取組とそれを一緒に応援していく消費者さんを繋いでいくことが大切だと現場の目線で教えていただきました。また、クールベジタブル*の仕組みと現状の説明も受けました。

2025年2月には日本バイオ炭コンソーシアムのシンポジウムに参加し、東近江市の取組を事例発表（森と水政策課）する機会もいただきました。全国の最新情報と現場の最前線を走っている方々との交流、意見交換はヒントがたくさんあり今後の取組につなげていきたいです。

*クールベジタブル（クルベジ）とは：植物は二酸化炭素を吸収するが、枯れると外に排出してしまう。しかし、竹や木などは焼いて炭にすると、炭素(C)を固定することができる。それを地中に埋め、空気中の酸素(O)との結びつきを防ぐことで、二酸化炭素(CO₂)の削減につながる。日本クルベジ協会では、炭を入れた畑で作った野菜のことを『二酸化炭素を減らすことで地球を冷やす野菜=クールベジタブル』と呼んでいる。



東近江市「もみ殻くん炭」モデル事業との連携



2024年度は新たに2つの取組が始まりました。

(1)「もみ殻くん炭を活用したJクレジット*拡大モデル事業」には、東近江市の菜種生産協議会の5つの農家が参加。

(2)「東近江市もみ殻くん炭クレジット化促進モデル事業」には、認定新規就農者5名の農家さん（作物はお米・メロン・ぶどう・ほうれん草・にんにく）が参加しました。

この取組でのJクレジット認証は約5tCO₂削減分となり、2025年度申請分として新たなクレジットが創出される予定です。

*Jクレジット制度とは：省エネ設備の導入や森林管理などによる温室効果ガスの排出削減・吸収量を「クレジット」として国が認証する制度。企業や自治体がこれを購入することができる。

循環型農業と 消費者をつなぐ

6月に、東近江市でくん炭を長年利用していただいている「農業生産法人あぐりきつず」の黒川さん、「上岸本温室組合」の遠藤さんのもとにお伺いし、現地ヒアリングを行いました。くん炭を使った循環型農業を実践されており、作物が病気になりにくいやなど、じんわりと効果を感じながら土づくりをされていたのが印象的でした。

今後はくん炭を使って育てた作物を消費者の方に認知してもらえるよう、クールベジタブルとしてブランド化を目指します。



BDFの利用をもっと身边に！

東近江市森と水政策課と協力し、2024年度からBDF用の発電機のレンタルを始めました！すでに二五八祭りや、国スポイベントなどで活躍しました。市内のイベントでしたら、申込みいただければ利用が可能です

毎年BDFを使ってくださっていた湖東のイルミネーションイベント「コトナリエ」が2023年度で終了してしまいましたが、これまでこのイベントをきっかけに、子どもたちが親御さんを連れて菜の花館に廃食油を持ってくれたことがたくさんありました。

やはり、市民のみなさんの身近な場所やイベントで利用してもらうのが、東近江市の資源循環を実感してもらえる機会になる、と感じます。BDFの発電機レンタルで、そんな場をドンドン増やしていきたいです。

もみ殻くん炭製造量推移



04 活動を語り伝える生産物

菜ばかり販売関係ーギフト

「持続可能な地域を未来へつなぐ」。この想いを背景に生まれた東近江産の菜たね油『菜ばかり』。みなさまにご愛顧いただき、おかげさまでたくさんの店舗・サービスで取り扱っていただいております。

そしてこの度、ギフトセットをリニューアルいたしました！ 菜の花館でのご注文、もしくはオンラインストア **"STORES"** にて販売しております！ お中元・お歳暮などの贈り物やプレゼントにご利用ください！

ラインナップは3種類！

- ・菜たね油「菜ばかり」ギフトセット ￥3,138
(菜ばかり470g×2本)
- ・ひがしおうみ菜の花エコプロジェクトギフトセット ￥2,119
(菜ばかり470g+愛しやぼん300g)
- ・菜たね油「菜ばかり」+コラボ商品満足セット ￥2,472
(菜ばかり470g+菜ばかりチップス)

※コラボ商品満足セットは菜の花館店頭のみでの取り扱いとなります



オンライン
ショップは
こちら！



これからもせっけんと

活動を伝えるために

2024年7月から、廃食油リサイクルせっけん「愛しやぼん」の新しい商品パッケージでの販売がはじまりました。暮らしかたの見直しが広がり、ナチュラルクリーニングが注目されているなか、若い世代のせっけんへの関心も高まっていると感じます。幅広い世代に、まずはせっけんを手に取ってもらえる機会を増やせるよう、紙のパッケージや40gのお試しサイズを展開しています。

また10月には、韓国KNNテレビの取材を受けました。「水と共に生きる」をテーマとした番組のなかで、びわ湖の水質・環境保全のための行政や市民の活動事例のひとつとして、愛東のせっけんづくりの活動を取り上げていただきました。せっけんを製造する「愛のまちエコライフ」のメンバー2名も出演し、コメントとともにせっけんの製造～使用までをご紹介くださっています！



韓国KNNテレビの
番組はこちから
ご覧いただけます



05 農ある暮らし

2024年度もたくさんの方々が農業体験「土と暮らしど」に参加してくださいました。

大切にしているのは、栽培プロセスの最初から最後までを体験してもらうこと。

収穫などの華々しい作業だけでなく、田んぼであれば草取り、梨栽培であれば受粉や摘果まで。

そうして知ってもらいたいのは、食が生まれる現場のこと、そこで農を営む農家のこと、農村のこと。

私たちの食を支える農村は今、高齢化や人口減で全国共通の危機を迎えています。

実際に体験して頂くことで、『農』や『農村』のことを一緒に考えてくれる人たちが

増えていくことを目指しています。

ぶどう俱楽部

ぶどう俱楽部は、ぶどう農家の植田さんご夫妻の農園で活動しています。2024年度は、11組16人のメンバーで活動スタート！今回のメンバーは、全員が初参加ということもあり、「ぶどう栽培には、こんな作業があったのか！」、「この作業は、こんなにも時間がかかるのか…！」と、毎回驚きの声が連続していました。日々大きくなっていくぶどうにも、毎回感動の声があがり、むかえた収穫の日にはみなさんとても喜ばれていきました。最終日には交流会を行い、植田さんからぶどうジャムのプレゼントがありました。

アンケートからは、生産の現場に思いを馳せられてるようになったとの意見があり、「ぶどう俱楽部」が農業／農村への入口になっていることを実感しました。



梨俱楽部

2024年度の梨俱楽部の体験は、県内から6名の参加がありました。春の摘果・ネット作業、夏～秋の収穫作業、冬の土づくり作業と、年間を通して体験いただきました。今回はすでに農に携わっておられる方の参加も多く、この経験をふまえて、自分のこれから農業や農ある生活のあり方を考えなおしたという方もありました。

梨俱楽部の梨園は、管理メンバーの作業のかいあって、今年度もたくさんの実をつけてくれましたが、年々増す夏の暑さで被害の大きい品種も…。農業にとっても厳しい気候問題。この経験を次年に活かします。

また地域内の他の梨園の作業支援に出向く機会も増えています（今年度は2園）。梨俱楽部は生産者でありながら、若手農家の育成や地域の農業維持の役割も担える団体でありたいと思います。



自然米俱楽部

自然米俱楽部では、農薬・肥料・石油製品を使わず、耕さない「自然農」の米づくりに切り替えて2年目のシーズンを、13組・30名超のメンバーと体験しました。

ひと組をのぞいて米づくり一年生の皆さん、草取りをはじめ手のかけ具合が収量に直結したり、様々な生き物たちが田んぼには息づいていることを目の当たりにしたり、いろいろな発見があったようです。

半数ほどのメンバーが次のシーズンも継続参加してくれ、中には地元で仲間と米づくりグループを立ち上げるという人も。少しずつこうした取り組みが広がっていくのが楽しみです。



貸農園

自分の手で作物を育てたい、土に触れたいという思いの18組の参加者でにぎわいを見せる貸農園です。初めての方はベテランさんにアドバイスをもらったり、不耕起栽培にチャレンジしているみなさんは互いに情報交換したりと、自然に交流の輪がひろがっています。体験者さんの中には昨今の異常気象による野菜の高騰を「今までなら何でそんな高いの！？」と思うだけだったのが、自分で野菜を育て始めてからは農家さんの苦労も少しほは分かるようになったよ」という方や、「この貸農園に来ることで気持ちがスカッとして癒されています」という方も。農に触れることで暮らしや気持ちにちょっとした変化を感じられている方が多くいらっしゃるという嬉しい気づきがありました！



里守隊

健全な里山林の育成と里山資源の活用、またそれらを可能にする共同体を地域の人と一緒に維持・継承していくことを目的に、月に一回活動しています。

最近では、シカの食害か？植樹した苗木がなかなかうまく育っていないことが課題。この対策が来年度は必要になりそうです。定例活動では伐採作業・薪割り・腐葉土取りなどを行い、自宅用の薪を調達してもらうこともできます。全体作業のほかにも虫取り・キノコ採りなど各自お好みのスタイルで、毎月都合の合う時に参加できますので、関心のある方は事務局までご連絡ください。



新規就農者＆集落営農の担い手をつなぐ

2011年から取り組んできた新規就農支援では、愛のまちエコ俱楽部が関わったものだけでも、これまで90名の相談者があり、就農を実現させた方は累計16名になりました！！品目は梨やブドウ、イチゴやメロン、有機野菜など様々。

2024年度に新たに挑戦したのは、集落営農の担い手を集落外から募集するという取り組み。高齢化や人口の減少で人手がなく、集落で農地を守る営農にも限界を感じているところも増えているようです。「あと5年もつか…？」という地元の農家さんの声も聞こえるようになり、気になっていた中、大林町の農業法人「アグリ大林」さんから、担い手を外部から募集してみたいんやけど……との相談！ 地域課題を事業として解決するのがエコ俱楽部の役目！ 早速役員の方と丁寧に話合い、あくまで「体験」として集落営農に携わりたい人を募集することになりました。なんと3名の方が応募。うち2名の方が実際に1年間「アグリ大林」での営農に参加してくれました。

お2人の感想に共通していたのは、地域のみなさんが自然に受け入れてくれて、居心地が良かったこと。そしてすごく勉強になったので、もう1年やりたいとのことでした！ うち1名は正式にアグリ大林の雇用で営農に関わることに！ 今後、他の集落でもご希望があれば、担い手募集のお手伝いをしたいと思っています。

愛東まち協「新春のつどい」で3名の新規就農者さんをご紹介しました→



農家民泊「ただいまステイ東近江」

2024年度は教育旅行（修学旅行の民泊）では神奈川、兵庫、大阪から合計6校の中学生を受け入れることができました。延べ515人が東近江市の受入家庭延べ87軒でホームステイを体験。田舎体験と交流で子供たちのいきいきした顔がたくさん見られました。インバウンドの問い合わせも増しており、シンガポール、ベトナム、アメリカからのべ89人が民泊家庭で滞在しました。みなさん日本の暮らしを積極的に体験して充実の時間を過ごされ、離村式では別れの寂しさに涙もありました。

民泊受け入れ家庭さんとの研修では、「一品持ち寄り研修会」と南信州への「県外研修」をコーディネート・実施しました。いつもと違い体験する側になり、民泊を別の視点で体感する充実した研修となりました。

また「ただいまステイ東近江」では農家民泊を通した国際文化交流にも力を入れております。インバウンド向けのPR動画を作成しましたので、ぜひご覧いただき、東近江市の農家民泊のアピールをよろしくお願いします！！



インバウンドPR
動画はこちら



06 「だれんち」から 広がる共感

『だれんち』は、誰もが持続可能な暮らしを模索できる場所。お試し移住や生業づくりへのチャレンジはもちろん、映画会等を通してゆるやかな共感の場づくりにも活用できます。未来につながる多様な動きを、私たちだけでなく地域の内外の人たちと一緒につくることを目指しています。



「だれんち」での宿泊体験

今年度も地域の農業・食事体験とセットで、71名の方に「だれんち」にご宿泊いただきました。毎年フィールドワークで通ってくださっている関西大学大門ゼミをはじめ、移住して果樹農家になりたいので地域のぶどう農家と繋がりたい方、まちの大学で地域学を学んでおり実際に農村の人や暮らしに触れてみたい方、映画会の参加と併せて環境にやさしい農業の実践者に会いたい方など...。最近はお子さま連れのご家族で、地域の体験を求めて宿泊される方も増えてきました。

関東、関西からを中心に、移住をはじめさまざまな農村との関わりを求める人と、地域とをつなげるコーディネートを行っています。



だれんちシアター

今年度から定期開催をはじめた、ドキュメンタリー映画の上映会「だれんちシアター」。上映作品は、4月「食の安全を守る人々」、8月「水俣曼荼羅」、11月「たねと私の旅」、12月「おだやかな革命」、3月「夢みる給食」。食、エネルギー、公害問題と幅広い“暮らし”にまつわるテーマを扱い、のべ130名の参加がありました。

上映後は、必ず感想交換の時間を設けています。テーマをもとに、ふだん考えていること、これから考えたいこと.....など、様々な思いを交換することで、「だれんち」がそれぞれの暮らし方を気軽に考えられる場所になればと思います。

また11月は五個荘にある「湖香六根」さんと共催、3月は八日市にある「かなめカフェ」さんにご協力いただきました。地域内のつながりも生みながら、多様な場づくりを続けていきます。

ユース世代を対象とした企画を実施

愛のまちエコ倶楽部20周年の記念事業の1つとして、若い世代を対象とした一連の企画を行いました。

メインとなったのは「だれんちの集い」と題したトーク会。計3回開催し、東近江市在住・在勤の若者や、現在・過去のCSOインターン生、県内在住の大学生などが参加してくれました。「何をいってもいい」、「他者の言うことを否定しない」など、安心して参加できるようなグランドルールを設定したうえで、「地方で生きることのモヤモヤ」(第1回)、

「もっとこんなことができたらいいのに！」(第2回)、「おすすめの本」(第3回)について対話を行いました。

人口減少に直面する農村では、若者が地域に増えることが切望されています。一方で、農村に興味を持っていたり、実際に働いている/暮らしているという若い世代は既に存在しています。そんな若者たちの等身大の声は聞かれているだろうか？ そもそも若者同士でもお互いを知ったり、自分の想いや考えをじっくりと言葉にしてみる機会がなかなかないのではないか？ 若手スタッフのそんな問題意識から形になった企画でした。

また、今年度は大学生が友人を集めて東近江地域を知るツアーや企画・実行し、宿泊先としてだれんちを利用してくださったこともありました。自分もだれんちで何かしてみたい！という方はお気軽にご相談ください！



11月に開催した会員交流会では、「お米はだれがつくるの？～つくり手を知って、これからを想像してみる～」をテーマにトークイベント形式で開催。田んぼの担い手不足の声が多く聞かれるなか、まずはみんなで現状を知って考える時間が欲しいと思い企画。会員30名にご参加いただきました。

トークゲストは、次世代を見据える集落営農「アグリ大林」伊藤さん、JAで長年お米を担当する河口さん、お米の新規就農者「ココカラファーム」杉本さん、地域の田んぼ約200haを管理する「脇坂農場」脇坂さん。厳しい現状を改めて知りつつも、“お米の収入で生活できるべき”、“農業をやりたい人はまだまだいる”というゲストの声、また就農によって地域とのつながりや健康的な家族との時間ができたという杉本さんの声。就農へのステップが踏みやすい環境があれば、もっとお米づくりの可能性は広がると感じました。

最後は、愛東の野菜たっぷりの豚汁と一緒に、お米の食べ比べ。会員のみなさんと美味しい、充実した時間を過ごすことができました。



持続可能な地域を 未来へつなぐ

NPO法人愛のまちエコ俱楽部

〒527-0162 滋賀県東近江市妹町70 (あいとうエコプラザ菜の花館)

〒527-0175 滋賀県東近江市梅林町90 (だれんち)

📞 0749-46-8100

📠 0749-46-8288

✉️ npo@ai-eco.com

⌚ @ai.eco.nabakari (菜ばかり)

⌚ @darrenchi_shiga (だれんち)

⌚ www.facebook.com/npoaieco

⌚ LINE ID @898geutw



公式LINEご登録
お待ちしております！